京都芸術大学　論文執筆ルール（横書で論文を執筆する場合）

1　論文の構成（※は、ある場合のみ添付すること）

(1) 博士課程

①表紙　②本文目次　③初出一覧（博士学位論文の構成要素であることを明記する）④本編　⑤註釈
⑥参考文献（年代順に並べる）⑦研究業績一覧（論文、口頭発表、作品、展覧会など、項目ごと年代順に列挙）
⑧資料一覧※　⑨資料※　⑩図版一覧（番号、作者名、タイトル、技法、年代、所蔵先、出典等(執筆者作成・撮影などを含む）を明記する）※　⑪図版（番号）※

(2) 修士課程

①表紙　②本文目次　③本編　④註釈　⑤参考文献・参考資料（年代順に並べる／URL の場合は閲覧日を明記する）
⑥図表一覧（番号、作者名、タイトル、技法、年代、所蔵先、出典等(執筆者作成・撮影などを含む）を明記する）※
⑦図表（番号）
⑧発表論文リスト※

2　タイトル・副題

タイトルに副題をつける場合は、一文字空けて、副題の最初と最後に「―（全角ダッシュ)」を使用する。
［例］工部美術学校の研究　―イタリア王国の美術外交と日本―

3　章・節・小節

章：全角算用数字（章の後一文字空けて、章のタイトルを記入）　［例］第１章　タイトル
節：全角算用数字（節の後一文字空けて、節のタイトルを記入）　［例］第１節　タイトル
小節、項の使用および記載方法については、任意とする。なお、章末と節末は一行あけること。

4　註と引用文献の書誌情報の書き方

末尾にまとめて註ならびに引用（又は参考）文献を記載する。引用文を註の中で記してもよい。
原則 Word ソフトの機能を用いて註を入れること。

(1) 本文中の註の付け方　半角算用数字［例］～だった[1]。**(註の番号は句読点の前におく)**

(2) 末尾の註釈における表記　半角算用数字［例］1 赤井哲郎『京都の美術史』思文閣出版、1989 年、p. 238。

(a) 和文の註・引用文献の形式は下記のとおり

①著者名「②論文名」③編者名『④本・雑誌の題名』⑤翻訳者名、⑥出版社名、⑦年、⑧ページ。

［例１］ 1 赤井達郎『京都の美術史』思文閣出版、1989 年、p. 238。

［例２］ 5 赤井前掲書、p. 124。／pp. 105-110。(p. の後、pp. の後に半角空ける)

［例３］ 雑誌…　北原敦「日常的実践の歴史学へ」『思想』848 号、1995 年 2 月、pp. 24-42。

［例４］ 書籍所収論文…　二宮宏之「フランス絶対王政の統治構造」吉岡昭彦・成瀬治編『近代国家形成の諸問題』木鐸社、1979 年、pp. 5-20。

［例５］ 同一著書及び論文に複数の前掲書がある場合は初出時に次のとおり記述すること。
1 赤井達郎『京都の美術史』思文閣出版、1989 年、p. 238（以下『京都の美術史』)。
後続の註では、
5 赤井前掲書『京都の美術史』、p. 124。

［例６］ 直前の同一文献の同箇所を参照させる場合は次のとおり記述すること。

1 赤井達郎『京都の美術史』思文閣出版、1989 年、p. 238（以下『京都の美術史』）。

2 同上。

3 北原敦「日常的実践の歴史学へ」『思想』848 号、1995 年 2 月、pp. 24-42。

4 同上、p. 22。

5 赤井達郎「蓮如上人絵伝」浄土真宗教学研究所・本願寺史料研究所編『講座蓮如』第２巻、平凡社、1997 年、p. 227。

6 赤井前掲書『京都の美術史』、p.255。

(b) 英文の註・引用文献の形式は下記のとおり

① 著者名 ②“論文名,”③編者名,ed.,④本・雑誌の題名（イタリック体）,⑤出版社のある都市名,⑥出版社名,⑦年,⑧ページ.

［例１］ Alexander Dallin, *The Soviet Union at the United Nations, an Inquiry into Soviet Motives and Objectives,* New York, Frederick A. Praeger, 1962, p. 65.（「p.」の後に半角空ける）

［例２］ Rosalind Krauss, ″Sculpture in the Expanded Field″, *October*, vol. 8, Spring, 1979.

［例３］ 同一著書に複数の前掲書がある場合は次のとおり記述すること。

Krauss, *op. cit.*, pp. 6-10.（op. cit はイタリック体、cit.の前に半角空ける）

［例４］ 直前の文献もしくは著者を参照させる場合は次のとおり記述すること。

Id., p. 12.（直前の文献の場合）

Id., “Grids”, *October*, vol. 9, Summer, 1979.（著者の場合）

［例５］ 直前の文献の同一箇所（ページ）を参照させる場合は次のとおり記述すること。

Ibid.

(c) 英語以外の欧文の註・引用文献の場合

上記の(b)英文の註・引用文献の形式に、以下を追記すること

①著者名原語表記②(著者名片仮名表記)③“論文名原語表記,”④論文名和訳を丸括弧内に記す,⑤編者名,ed.原語表記,⑥編者名,ed.和訳を丸括弧内に記す,⑦原語の本・雑誌の題名（イタリック体）,⑧本・雑誌の題名和訳を丸括弧内に記す⑨出版社のある都市名,⑩出版社名,⑪年,⑫ページ.

［例 1］Rosanna Maggio Serra (a cura di)（ロザンナ・マッジョ・セッラ編）, *Antonio Fontanesi 1818 - 1882*（アントニーオ・フォンタネージ、1818 年- 1882 年）, Torino, Umberto Allemandi & C., 1997.

［例 2］ Fabio Oliveri(ファビオ・オリヴィエーリ), *O’Tama Kiyohara dal Sol Levante all’Isola del sole. Una pittrice giapponese in Sicilia dal 1882 al 1933*（清原お玉、日本から太陽の島へ、1882 年から 1933 年までのシチリアにおける日本女性画家）, Krea, 2003.

(d) その他の言語の註・引用文献の場合

①著者名原語表記②著者名の日本における漢字表記もしくは片仮名表記を丸括弧内に記す、③論文名原語表記（“ ”、「」などその国の慣用に従うこと）, ④論文名和訳を丸括弧内に記す、⑤編者名,ed.原語表記、⑥編者名,ed.和訳を丸括弧内に記す、⑦原語の本・雑誌の題名（“ ”、『』などその国の慣用に従うこと）⑧本・雑誌の題名和訳を丸括弧内に記す⑨出版社のある都市名、⑩出版社名、⑪年、⑫ページ.

［例 1］刘新民（劉新民）、李建明、『变态心理学』（変態心理学）、合肥、安徽大学出版社、2003 年

［例 2］박영산（パク・ヨンサン),「 한일 현대극의 전통수용 비교연구 」(韓日現代劇の伝統受容比較研究),『일본근대학연구 34 권』(日本近代学研究 34 巻), 釜山, 한국일본근대학회(韓国日本近代学会)、

2011 年、pp. 188-189

(e) インターネットを参考にした場合→閲覧日を丸括弧内に記す。

［例］　文化庁 HP http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/index.html（2019 年 8 月 31 日閲覧）

（全角丸括弧に半角算用数字で年月日を表記）

(3) 図・表の番号と題、図版情報、所蔵・出典（キャプション）

図・表には、一論文内でそれぞれ通し番号をつけ、番号の後に題、図版情報、出典（キャプション）をつける。

全角丸括弧に半角算用数字、続けて空きを作らずキャプション記入する。

論文に使用する図・表には、「執筆者作成・撮影」等を含め、出典を明記する。

［例］　（図 1）会場レイアウト（執筆者撮影）

［例］　（表 1）参加者の属性（執筆者作成）

(4) 数字の表記については、後述の 6 に準ずる。

(5) 外国語文献の文章の一部を本文中もしくは註釈において引用する場合、翻訳者名を明らかにすること

①和訳刊行されているものを使用する場合→上述の註のルールによる註記でよい。

②論文執筆者による翻訳の場合→翻訳文章の後、丸括弧内に執筆者本人によるものであることを明記する。

［例］「中世の室内における偉大な要素は家具である」[2]（論文執筆者訳）　　（＊[2]　は註の番号）

③AI による翻訳の場合→翻訳文章の後、丸括弧内にサイト名もしくは機種名などを明記する。別紙「学修及び研究活動における AI の取り扱いについて」を参照。

［例］「人生とは広大な活動の場である」[2]（Google 翻訳）

※引用元著者、論文タイトル、掲載誌、発行者、発行年、引用元の頁、(ChatGPT による翻訳、翻訳年月日、OpenAI　https://chat.openai.com)

※用語の統一や文脈上の必要から修正した場合は「(ChatGPT による翻訳、文脈上の必要から筆者による編集済み、翻訳・編集年月日、OpenAI　https://chat.openai.com)」と記載する。

5　図（画像）・表のキャプション

図・表には、一論文内でそれぞれ通し番号をつけ、番号の後に題（キャプション）をつける。

全角丸括弧に半角算用数字、続けて空きを作らずキャプション記入する。

［例］（図 1）会場レイアウト

［例］（表 1）参加者の属性

6　数字の表記はすべて半角で記述すること。

年号　［例］1910 年、平成 5 年

日付　［例］平成 13 年 2 月 27 日、2004 年 1 月 1 日

世紀　［例］19 世紀、20 世紀、5 世紀

単位　［例］285cm、2.3g

7　文字のフォント（書体）、サイズ等

※大学院紀要論文は、以下のフォントに定める。

※博士論文は、正本（製本された紙媒体及び電子データ）提出時においては、以下のフォントに定める。

※修士論文は、以下を推奨フォントとする。

(1) 本文

原則として和文はMS明朝、欧文はTimes New Romanを使用する。

各項目のフォント・サイズ等は以下のとおり定める。

タイトル：12pt・MS明朝・太字、氏名：12pt・MS明朝、章：10pt・MSゴシック・太字、節・本文：10pt・MS明朝

(2) 英文要旨

原則としてTimes New Romanを使用する。各項目のサイズ等は以下のとおり定める。

タイトル：12pt・太字（Times New Roman Bold)、氏名：11pt、本文：10pt

なお、図・表等のキャプション、図版情報、所蔵・出典は、横書きとする。フォントは原則として和文はMSゴシック、欧文はArialを使用する。

＊本文中内では表記を統一すること。

＊本論文執筆ルールに記載されていない事項については自由裁量。不明な点は指導教員に相談すること。

2020年9月29日制定

2021年9月13日追記修正

2022年9月30日追記修正

2023年4月13日追記修正

2023年4月28日追記修正

2025年4月1日追記改正